

松江堀川の生物調査 [アカミミガメの生息状況] について

山口 勝秀 (ホシザキグリーン財団環境修復プロジェクト)

松江市内を流れる堀川は、宍道湖からの導水で汽水域に生息する生物が生息している。ヤマトシジミやスズキのほか、エビ類、ウナギなど多種多様な生物が生息している。こうした環境を保全し、観光スポットとして魅力アップを図ることを目的として 2015 年に『汽水の松江堀川』魅力アップ協議会が設立された。協議会の調査により、城山内堀川と周辺河川で、多くの外来生物が確認された。松江堀川をより魅力的なスポットとしていくため、外来生物防除に取り組んでいくための調査を行ったので報告する。

2017 年 6 月 15 日に、堀川水系の 8 地点においてワナを仕掛け、生物を捕獲した。その後、4 地点 (城山内堀川、北田川、中川、比津川) を選び、調査をおこなった。捕獲されたカメ類は 781 個体で、アカミミガメが最も多く、50.7%を占めた。次いでクサガメが 44.6%、ニホンイシガメは 2.7%、ニホンスッポンは 1.5%、ニホンイシガメとクサガメとの交雑個体が 0.5%であった。

ほとんどの地点で、外来種のアカミミガメが確認され、松江市でも広範囲に分布が広がっていた。城山内堀川では密度が高い一方で、堀川遊覧船が運行している北田川では密度が低いなど分布に偏りがあった。中川ではクサガメの生息密度が高く、小型個体が多く捕獲され、再生産が行われていると思われる。中川は、自然の川岸が残存しており、産卵に適した陸地があるためと考えられる。一方、比津川では、アカミミガメの生息密度が高かったが、これは川岸がコンクリートで、人工堰が唯一の陸地となっていることから、遊泳力の強いアカミミガメに適した環境となっているためと思われる。一網あたりの捕獲数によるアカミミガメの生息密度は、比津川が 1.48、中川が 0.99、城山内堀川が 0.52 であった。兵庫県東播磨、姫路市では 2.0 以上 (谷口ら 2015) となっている。これらに比べると低く、防除に向けた取り組みを進めるには、短期間で低密度化することもできると思われる。

アカミミガメの糞の中には、水生植物、哺乳動物の毛、シジミの貝殻、甲殻類の殻、昆虫類など、さまざまなものがみられたことから、環境に応じて、食性を適応させて成育できると思われる。



ミシシッピアカミミガメ (外来種)



ニホンイシガメ (日本固有種)